

【新聞活用学習】中学３年生・社会科 公民

生徒同士が関わり合いながら、社会事象に対する見方・考え方を広めていく社会科の授業のあり方

実践校第１年次 佐久市立野沢中学校 河野 智枝

（１）本年度のN I E活動の概要

- 目標 社会科の授業として行うこと
- 活動内容 社会科の授業での新聞記事の活用
- 成果と課題 （７）を参照



（２）本年度のN I E活動の取り組み状況

- 学校規模 全校４９３人（１８学級）
- 生徒の実態 （５）を参照
- 新聞活用の状況 ３年の廊下で閲覧できるようにした。授業では該当学級の社会科のみ。

（３）N I E活動の狙い

- 単独で「N I E活動」とは考えていない。あくまでも社会科の授業の一環であること。
- 従って狙いたい姿は本校社会科の研究テーマ通り、「生徒同士が関わり合いながら、社会事象に対する見方・考え方を広めていく姿」。

（４）全校での取り組み

- なし

（５）公開授業などの活動内容 **中学校３年 社会科 公民**

①単元名 公民的分野「私たちの生活と文化」

②主目標

現代社会の特色である少子高齢化、情報化、グローバル化などについて理解し、将来の日本の政治、経済、国際関係に与える影響について考察した生徒が、「佐久市の身近な文化」に注目したり、異文化について考えたりすることを通して、現代社会における文化の意義について理解し、文化の継承について自分の考えを持つことができる。

③単元の展開

学習内容/学習問題	指導	時間	資料
1 私たちの生活と文化の役割 <学習問題> 「佐久市の文化」には、 どんなものがあるだろう。	○文化の三領域「科学、宗教、芸術」の中の「宗教」に注目し、「宗教」に関わる「佐久市の文化」にはどんなものがあるか出し合ったり、資料で確認したりする。 ○自分が住んでいる地域には、どんな文化があるのか想起させる。	1	・「佐久市の文化」が分かる資料 ・「跡部の踊り念仏」動画、写真

	○身近な「佐久市の文化」の一つとして「跡部の踊り念仏」を取り上げ、動画を視聴したり、写真を見たりさせる。 ○「跡部踊り念仏保存会」の方に授業に参加していただき、踊り念仏の歴史や念仏の意義（念仏往生・慰霊・鎮魂等）について簡単にお話していただく。 ○令和2年度の踊り念仏は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止せざるを得なかったこと、そのことについての思いをお話していただく。 ○踊り念仏を体験させていただく。	1	
2 暮らしに生きる伝統文化 <学習問題> 「跡部の踊り念仏」は、この先どうなっていくのだろう。 ※本時	○高齢化など諸事情により継続が難しくなった伝統文化に関わる新聞記事を提示し、学習問題を設定する。 ○跡部地区の人口の推移を確認する。 ○話し合いの司会は生徒に務めさせる。 ○話し合いの後、跡部の踊り念仏がユネスコ無形遺産候補になった新聞記事、保存会の方の思いを紹介し、再度学習問題について考えさせる。 ○住民のひとりである自分には何ができるか考えるよう促す。	1	・「霜月祭」新聞記事 ・「跡部地区人口推移」 ・「ユネスコ無形遺産候補」新聞記事 ・保存会の方の思い
3 多文化共生を目指して <学習問題> 「異文化」には、どんなものがあるだろう。	○「異文化」にはどんなものがあるか出し合わせる。 ○「異文化」への偏見がないかを振り返らせ、多文化共生に関わる新聞記事を読ませる。考えをノートに書き出させる。 ○「異文化」への理解を促す。	1	・「多文化共生」新聞記事

④本時

○主眼

「佐久市の文化」の一つである跡部の踊り念仏を知った生徒が、学習問題「跡部の踊り念仏はこの先どうなっていくのだろう。」について考え、意見を出し合ったり、跡部の踊り念仏がユネスコ無形遺産候補になったことや保存会の方の思いを知ったりして、伝統文化を残していくためには、自分も含めて人々の努力が必要であることを学ぶことができる。

○本時の展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導	時間	資料
導入	1 「霜月祭」の新聞記事を読み、学習問題を設定する。 <学習問題> 「跡部の踊り念仏」は、この先どうなっていくのだろう。	・お年寄りが増えると、お祭りを続けるのも難しいのだな。 ・跡部の踊り念仏はどんな人たちがやっていたかな？	・新聞記事を読み、「佐久市の文化」である跡部の踊り念仏を想起させ、学習問題を設定する。	10	・「霜月祭」新聞記事 <資料①>
展開	2 自分の考えを書く。	・踊り念仏を踊っていた人たちはお年寄りが多かった気がする。 ・跡部は高齢化しているのかな？	・自分の考えをノートに書かせる。 ・なぜそう考えたのか理由を明確にさせる。 ・机間指導を行い、記述に目を通す。 ・跡部の高齢化を問う質問が出た場合は、資料を提示する。	5	・跡部地区の人口、高齢化率の推移
	3 発表する。	・鎌倉時代から今までずっと続いているからこの先も続いていく。 ・跡部は人口が減っていないからやれる人はいると思う。 ・踊り念仏をやっている人はお年寄が多いからこの先心配。長い期間で見れば、日本はかなり高齢化が進んでいる。 ・今年はコロナで開催できなかったから、コロナが続けばできない。	・司会は副ルーム長に務めさせる。 ・進行の補助を行う。	10	
	4 「ユネスコ無形遺産候補」の新聞記事を読み、もう一度自分の考えを書く。	・日本全国の中で選ばれるなんて、貴重なものなのだな。 ・保存会の人数は減っているのか。	・新聞記事を読み、もう一度学習問題について考えてみるよう促す。	10	・「ユネスコ無形遺産候補」新聞記事 <資料②> ・保存会の方の

		・あわせて、ユネスコ無形遺産候補になったことに対する保存会の方の思いを紹介する。 ・机間指導を行い、記述に目を通す。		思い <資料③>
まとめ	5 発表する	・こうやって候補にも選ばれているならきっと続いている。 ・なくなってほしくない。貴重な行事だから。 ・保存会の人数も減っているし、高齢化が進んでいるならこの先心配。他にも何か対策を立てないとなくなってしまう。 ・保存会の人たちが頑張っている。自分が住む地域にもそういう人たちがいるかも。	・司会は副ルーム長に務めさせる。 ・「佐久市の文化」について、佐久市の住民である自分には何ができるか問いかけ、今後の見通しを持たせる。	5

○実証の観点

- ・伝統文化として「跡部の踊り念仏」を取り上げ動画や写真で紹介したり、踊り念仏を体験したりしたことは、社会事象が「自分ごと」となるような資料の提示となったか。
- ・霜月祭の新聞記事（文化の継承が困難になってきている具体的な例）から、学習問題『「跡部の踊り念仏」はこの先どうなっていくのだろう』を設定したことは、「自分ごと」として捉えることができる学習問題の設定となったか。



飯田「遠山郷」氏子の高齢化進み

霜月祭り2神社実質中止

「湯立て神楽」行わず

数年間議論…苦渋の決断

信濃毎日新聞
2019年11月13日

<資料①>



ユネスコ無形遺産候補

「風流踊」国内37件選定

県内2件 伝承へ励み

和合の念仏踊り(阿南町)

跡部の踊り念仏(佐久市)

体を激しくぶつけ合う舞

「遍上人ゆかり言い伝え」

ユネスコ無形遺産候補に選ばれたことについて

「佐久市」でも、「日本」でもなく、「世界」の遺産として認められようとしていることに、とても深い意義を感じています。女性の伝承者を中心に、「踊りを受け継いでいく励みになる」という声が多くあります。跡部の踊り念仏とともに、ユネスコ無形遺産候補に選ばれた日本全国の36の「風流踊(踊りを取り入れた伝統文化)」は、すべて一遍の「踊り念仏」を原型としているという話があります。その他、能や歌舞伎などの伝統芸能も、輪になって踊る盆踊りも、です。跡部の踊り念仏は、一遍が行った「踊り念仏」の原型に近いと言われています。つまり、跡部の踊り念仏は、日本全国の、踊りを取り入れた伝統文化のもとになる存在なのです。そんな跡部の踊り念仏を受け継いでいる私たちは、世界の遺産に選ばれることを、とても誇りに思いますし、また、同時に「途絶えさせてはいけない」という責任の重さを感じています。

(保存会 北村さん・廣岡さん)

<資料②>

信濃毎日新聞

2020年2月20日

(6) 生徒の反応

○授業日の生活記録から○

今日、社会の授業で跡部の踊り念仏が世界ユネスコ無形文化遺産の候補になっていることを知りました。学区内にユネスコの文化遺産があったらとても誇らしいなと思いました。でも、高齢化によって踊り念仏がなくなってしまうかも→どうする？という学習内容が出て、とても悩みました。難しいことですよ。私は受け継ぐ人がいないのは、本当の価値をみんな軽く見て「なくなってもいい」と思っているからでは、と思いました。当時の人たちは、今のように、衣食住が保障されていなくて「来世こそ」と幸せを願い、念仏を唱えていたんですよ。それにその念仏を伝えた一遍さんをうやまい、継承してきた人たちの苦労や切実な思いも価値の一部になると思います。でも、今は、昔の人の「幸せな暮らし」が平凡になるほど充実した生活を送っているので、踊り念仏の有り難みや価値を重く感じないんじゃないかなと思いました。時代が変われば人も生活も変わる。どう受け継いでいくのか。

今日、記者の方にインタビューされました。びっくりしました。急だったからです。あともう1つびっくりしたことがあります。新聞に載るかもしれないからです。達平君もインタビューされていました。自分のと聞き比べました。達平君はやはり続けていくべきだと言っていました。他の人のも聞いて、「できるか」「できないか」じゃなくて、「やるか」「やらないか」このことが大切だと感じました。

(7) 成果と課題

いつか踊り念仏を授業で扱いたかった私

5年前に初めて跡部で踊り念仏を見た時は、他校に勤務していた。その後、野沢中学校(跡部地区は学区)勤務となり、いつか「踊り念仏」を授業で扱いたいと頭の片隅で企んでいた。企みは実現した。

おもしろかったこと、感動したこと。

①「礼をしなさい」

公開授業の前の時間に、本当に無理を言って保存会の方に授業に参加していただいた。伝承者の女性にも2人参加していただき、生徒と私の目の前で踊っていただいた。感動した（私は）。授業の最後に短時間、みんなで踊った。私と、いつも明るいRくんが鉦を付けさせてもらい、前に出て踊った。Rくんは器用に鉦を鳴らしながら足踏みをしている。「悔しい。初めてのくせに（私も）。何ですぐにできるんだ」踊りが終わった後、私はすぐに「R、何でそんなにうまいの～」と声を掛けた・・・瞬間に、それまで穏やかに話をされていた保存会の方に、「礼をしなさい」と一喝されてしまった。確かに、伝承者の女性2人は踊り終えた後必ず、「合掌、礼拝」を行っていた。「踊り念仏は、ただのダンスじゃない。人間の信仰である」それを生徒に伝えたいと思っていた私。しかし、「ただのダンス」と捉えていたのは私の方だったことにがっかり。

②20年間の休止後、地域の全家庭の賛成を得て再開した踊り念仏

太平洋戦争をはさんで20年間ほど、踊り念仏が途絶えていた時期があると知った。跡部の方々は、それを戦後に復活させている。「20年前、私は何をしていたらろう？」自分に置き換えて考える。20年も前に途絶えてしまったものを、どうして再開させようと思ったのか、どうやって復活させたのか。人のエネルギーは時折すごいことを生み出す。丁度、テレビで、2019年の台風災害を受け1年ぶりに再開した長沼の神社のお祭りの特集を見た。藤森さんが授業後におっしゃっていた、「祭りの再開があつて、東日本大震災から本当に復興したと言える」という言葉を思い出した。

③東日本大震災の年でさえ実施した

授業前に保存会の方とお話した際、「今年はコロナ禍で踊り念仏が中止になってしまったと聞きましたが、どのような気持ちでおられますか」と聞いた。一通りお話された後、「東日本大震災の年でさえね、実施したんですよ。世の中が大変な時にやっていいのか、と随分検討しましたが、大変な時だからこそ、踊り念仏の意義も考えると実施した方がいいのではないかと、皆で話し合って・・・」とおっしゃった。踊り念仏は、念仏往生、慰霊、鎮魂のために行われてきたのだ。

「やるな」と思った生徒の姿。

①司会

副ルーム長の2人に司会を頼んだ。本当に「頼んだ」だけだったのにも関わらず、佐久平の開発の授業（事前授業）の際は、突然みんなの意見を板書し始めた。「おじいちゃん、おばあちゃんがやっていくというよりは、やる人そのものが減っていつちやうから続けるのが難しくなってこと？」、「踊り念仏という形ではなくなるってこと？」と切り返し、友達の考えを確認する姿があった。そんなことができるのかと感心した。「この子の力はこの程度」と決めてしまっているのは、いつも私だ。生徒も、それぞれ考えて最善を尽くして動こうとする。私がするのは、そういう場を多く設定していくこと。

②「線香あげようかな」

「踊り念仏はなくなってしまうのではないかな。若い人は神様とか信じなくなっているから」と予想した生徒でも、「おばあちゃん家では仏壇に手を合わせる」のだ。信仰は無意識に人の生活に位置付いてい

るのかなと思う。授業の映像を見返すと、そのSくんの発言に対して、男子数名が「最近線香あげてないな」「俺も」「線香あげようかな」というやりとりをしていた。「線香あげようと思うことが、伝統文化の継承になってるんじゃないの」と思った。

③「続く続かないじゃなくて、続けていかなきゃいけないと思うから」

今回の授業展開を考えるにあたり、学習問題をどうするか割と悩んだ。「踊り念仏がずっと続いてきたのはなぜだろう」「踊り念仏を続けていくためにはどうしたらいいだろう」等、候補があったが、私は踊り念仏の未来を考えたいと思い、「この先どうなるのだろう」とした。Hさんは、「続いていく」でも「続いていかない」でもなく、「続く続かないの議論じゃない」という考えを持った。「続く続かないじゃなくて、続けていかなきゃいけないと思うから」と言われた時、「先生、こんな学習問題じゃ不適切だよ。考えるべきはそこじゃない」と言われた気がした。

- 生徒に司会を任せたのにも関わらず教師の出が多く、結果、「教師・生徒」の関わりはあったが、「生徒同士」の関わりがなかったことが課題。今後も、「生徒同士」の関わりが生まれるための手立てを模索していく。